

好学尚武

練習試合の結果

4日（日）対庄和高校

2年生が模試だったので、1年生のみで庄和高校と試合をさせていただきました。両校共に自校グラウンドがサッカー部公式戦の会場だったため、三郷高校のグラウンドをお借りしました。庄和、三郷高校の皆さん、色々ありがとうございました。

通算成績 26勝 16敗 2分

新たなスタッフ加わる

私は（男3人兄弟の）長男なんですが、9つ下の三男も市高野球部の卒業生です。なぜいきなりそんな事を書いているかというと、今回、その代のキャプテンが野球部スタッフに加わってくれたからです。

そのキャプテンは、大学卒業後、指導者としてさいたま市内中学校の野球部監督、全国大会出場の実績があり、さいたま市選抜チームなども指導されている方です。

平日の練習参加は（仕事の関係で）厳しいと思いますが、土日祭日、可能な範囲で指導に加わっていただきます。

よろしくお願い致します。

ペナントレース

（9月30日現在）今シーズンのセ・リーグはまだまだ最後までどうなるか分かりませんが、もし、阪神が優勝したら、この日（9月22日・ヤクルト戦）の勝利はとても大きかったと振り返ることになると思います。

投手は10人の継投、特に（1点も失えない場面で）ドリス投手がアクシデントによる降板、急遽セベリーノ投手が登板、そのピッチングが見事でした（ヤクルト若手打者がストレート狙いっぽい感じのところ、変化球を要求し続けた伏見捕手のリードが素晴らしかったです→バッテリー皆で乗り切った試合）。

試合を決めたのは、普段大きな当たりを打つことの少ない高寺選手のホームランでした。これにも伏線が・・・延長、先頭の大山選手がヒット、そこに代走・植田選手（足のスペシャリスト）、打者高寺選手が送りバントのそぶりを見せないまま2球見逃し、カウントが1-1になりました（打とうとしている感じがしなかったので、植田選手に盗塁させようとしているのではと私は思いました。無死2塁狙いのギャンブル）。そうになるとヤクルトバッテリーがどういう配球になるか、走られたくない＝速いボール（ストレート）、そこに狙いを絞って3球目、そのストレートを高寺選手が強振してのホームランだったのです。

打った高寺選手は当然素晴らしい。でも彼1人の力ではありません。ストレートを投げざるを得ない配球にした代走・植田選手の存在、ヒッティングの作戦だった采配も良かったです（攻撃陣、采配、皆でもぎとった決勝点）。

野球は基本、個人レベルの動きが多いです。が、そこに様々チームプレーの要素や采配が絡んでいます（そこが面白いところ）。また、勝敗を分けるのはほんの少しの差、今年はそんなに各球団の戦力差がなかったと思います。

10月3日（土）、無事連覇達成しました～